

7 番（小川義昭君）

駅前交番の新設であります。

駅前交番の設置に関しましては、平成 18 年 5 月、松任壮年会と松任婦人会が中心となり交番設置キャンペーンを繰り広げ、1 万人の署名を募って市に要望書を提出した経緯がございます。その後、私を含め数人の同僚議員が何度か一般質問でも要望してまいりましたが、新幹線時代を迎えた今、沿線における駅前の整備、とりわけ市民や観光客の安全、治安の保全を図ることは急務であり、改めて駅前交番の設置を強く求めるものであります。

交番の新設に関しては、石川県警が地域の犯罪、交通事故の発生状況などを総合的に判断して決めています。このことは私どももよく承知しておりますが、交番設置を要望し始めて無為に 10 年が経過いたしました。今後の市の取り組み、展望について明快な答弁を求めます。

3 点目は、J R 松任駅への循環バス乗り入れにより、鶴来・白山ろくとの交通の利便性を向上させる件についてであります。

合併によって誕生した白山市は実に広い市域を有し、市御当局におかれても、さまざまな施策を打つ上で、地域のバランスをうまく図ることなどに苦慮されていることは重々承知しております。広い地域に一体感をもたらす、地域住民の融和を進めることは、合併自治体の宿命とさえ言ってよいでしょう。私は、こうした宿命に向き合う端的な手段の一つとして、かねてから白山市の地域と地域を結ぶ交通アクセス機能の向上を訴えてまいりました。

特に、本市の都心である松任地区と他の地区を結ぶアクセスは重要ですが、J R で結ばれている美川地区はともかく、本市のもう一つの核をなす鶴来地区とのアクセスが未整備のまま推移していることに危惧を抱き続けています。合併当初であれば、合併特例債を生かして大規模な松任鶴来縦貫道を建設する選択肢もあったのですが、今となれば、J R 松任駅から鶴来本町通り、そして白山ろくを結ぶ循環バスを定期運行することが最も現実的な対応策ではないでしょうか。

残念なことに、同じ白山市民とはいいいながら、鶴来・白山ろくに住まわれている住民の多くは金沢市の生活圏にあり、白山市の融和が進みにくいネックにもなっていると言うほかはありません。そこで、市長御自身も、J R 松任駅に循環バスの乗り入れで鶴来・白山ろくへの利便性を向上させるとのお考えでもありますし、来年は白山開山 1300 年の年でもあり、J R 松任駅からの観光客の受け入れも考慮しなければなりません。具体的な対応策をお伺いいたします。